

# 会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

|       |  |      |                       |
|-------|--|------|-----------------------|
| 開催日   | 平成 25 年 5 月 30 日(木曜日)  | 開催時刻 | 13 時 30 分から 14 時 30 分 |
| 会議名   | 丸子地域協議会(平成 25 年度第 2 回)   |      |                       |
| 出席委員  | 斉藤重一郎会長、丸山かず子副会長、池田佐代子委員、内田弘子委員、北村好美委員、工藤裕子委員、久保田和英委員、小宮山好豊委員、佐藤重喜委員、清水三枝委員、竹花和彦委員、竹花節子委員、永井正一委員、中澤ゆかる委員、松山慶子委員、宮坂雄一委員、宮崎涼委員、宮下正明委員、村松正孝委員 (【欠席委員】齊藤實委員) |      |                       |
| 市側出席者 | 片山丸子地域自治センター長、芹澤センター次長兼地域振興課長、水野地域振興政策幹兼丸子地域教育事務所長、清水市民生活課長、高野健康福祉課長、小相沢建設課長、丸山産業観光課長、滝沢上下水道課長<br>翠川地域政策担当係長、清水地域政策担当統括主査、澤山地域政策担当主任                     |      |                       |

## 会議次第

### 1 開会 (芹澤センター次長)

### 2 あいさつ

(会長)

皆さんこんにちは。平成 25 年度の第 2 回の丸子地域協議会、ご案内申し上げましたところ、委員の皆さんにはお忙しい中、また今日は雨が降り足元の悪い中、お集まりいただきまして誠に有難うございます。昨日からいよいよ梅雨入りとのことでございます。例年より 10 日、昨年より 11 日も早い梅雨入りという事であります。委員の皆さんには健康には十分注意して頂きたいと思っております。

また、6 月 3 日からは第 2 回のわがまち魅力アップ応援事業の募集も始まります。事務局に話を伺いながら、委員の皆さんには各地域、地域でそれぞれ頑張っている皆さんに応募していただいて、地域づくり、また、地域の活性化に向けて頑張っていただければ有り難いと思っております。ありがとうございます。

### 3 報告事項

#### (1) 鹿教湯 3 号源泉ポンプ改修に対する丸子温泉開発(株)への支援について

(次長)

前回の第 1 回の丸子地域協議会におきまして、委員の皆様にご協議いただきました鹿教湯温泉 3 号源泉ポンプ改修に対する丸子温泉開発(株)に対する支援について、財政と協議を実施した結果、上田市地域振興事業基金を活用した本工事への支援を見送ることと致しました。このことについて財政部からは、当施設の耐用年数が大きく経過していること、工事が多額であることは理解できるが、その一方で、本工事は丸子温泉開発(株)において恒常的な維持管理の範疇であり、基本的に短期的な施設整備計画を立て自社の資金において施工するものであり、仮に補助する場合においても、別所温泉など上田市全体の温泉関連事業における公平についても検討をしなければならないというものでございました。

前回の調整事項となっております、上田市からの具体的な支援事例としましては、旧上田地域において、真田幸村公の隠し湯である別所温泉、石湯は重要な観光拠点のひとつという事もあり、誘客対策、観光振興施策として平成 10 年度に行われた大規模改修の工事

の際の経費の一部を市が補助したという経過がございました。こういった事例を参考に検討して参りたいと思っております。加えて、丸子温泉郷や鹿教湯温泉における上田市地域振興事業基金の活用については、上田市総合計画や信州上田観光ビジョン、及び鹿教湯温泉100年ブランド創造プロジェクトが作成したマスタープランなどを基に、広く地域の振興につながるよう総合的な見地に立って検討を進めていく必要があります。

委員の皆様におかれましては、貴重な協議の末、鹿教湯温泉地域への発展のために力強い声援を頂いたわけではあります。今後は財政部の指摘も踏まえながら丸子温泉郷、鹿教湯温泉の発展に寄与するよう進めてまいりたいと思っております。よろしくお願ひします。

<質疑・応答>

(委員) 2点ほど質問させて頂きたい。まず、前回のときにも委員の中からも、かなり高額なランニングコストの質問は出ていたと思っております。そういう観点で、基本的には、自分の資金を計画的にランニングコストへ充当していくべきであるというのは妥当な話だとは思いますが、今回のポンプの改修、こういうものについての、従来からの温泉開発(株)に対しての行政的な指導の経過があるのでしょうか。今までは行政的に指導していなくて、急に突然、それは自己資金でやるべきであるという形も、場合によってはどうかと言うこともあろうかと思うのです。多分そういうことで行政的な指導とか相談を色々してきたけれど、そういう計画を立てる状況でなかったということであれば、それは一つの取組みの仕方であると思うのですが、その辺はどうなのかと言うことを1点お尋ねしたい。

第2点としては、持寄り基金の使用方法については、上田市全体の公平性と言う問題と、地域の特殊性と言うものをどうバランスとって行くのかが私たちにはよく分かりません。現在も上田市全体のバランスと言うことを、公平性と言うことを言われるわけですが、そうすると、まず公平性が先に立つとすれば、地域性と言うものはどういう場合なら認められるのか。前にも前センター長がこういう場合と言う風に言われたこと、書かれたものは承知をしておりますが、そういった定期的なものではなく、公平性と地域の特殊性、例えばどういう場合ならそれが成り立つのかということを確認に教えて頂きたいと思ひます。以上、2点お願ひします。

(次長) 最初の質問でございますが、丸子温泉開発(株)に対して行政として指導をしてきたかということでございますけれど、これについては、行政としては関与してなかったということ聞いております。

公平性と地域の特殊性の観点で、どういう場合かという事でございますけれど、持寄り基金について、何でもかんでも地域の特殊性でやってよいかと言うと、それもいかなものかという事です。前回、LEDの照明の補助をやる時に丸子地域だけ上乗せしてやるということもありましたけれど、これにつきましても上田市全体のバランスということでも検討を進めていた、かなり協議されたということもあつたと聞いています。今回も同じく丸子だけの問題ではなく、温泉と言うのは別所温泉もあるということの中、公平性を保たなくてはならないということです。いままでの別所温泉に係わる補助につきましても、多分、さかのぼって別所温泉のほうに、あるいは行政の管理自治センターのほうに問いあわせて調べたところでございます。そういうことを調べた上で、公平性を保てる中で補助等を考えて行きたいと考えております。

(委員) 2点目について、今質問したのはお答えと逆でございまして、まず公平性を先行

する場合に、それでは地域の特殊性はどういう場合に認められるのかということをお伺いしたのです。

(センター長) ただいまのご質問ですが、どちらを先行するかという部分があるかと思えます。原理原則論ということで公平性、地域性を総合的に判断していくとご理解いただければと思います。まず、公平性があるってその次に地域性だという部分ではないという風にご理解いただければと思います。それぞれの地域自治センターにおいて地域事業に活用したいというふうにまずおはかりします。その中で、担当自治センターがそれぞれが財政当局と今回のように協議をする。総合的に、公平性はどうか、地域性はどうか、協議を続けながら理事者の判断を仰ぐ。そんな風な仕組とご理解いただければと思います。

(委員) 納得できない。

(会長) 今まで地域協議会の中でも色々あって、先程のLEDの関係もそうでしたけれども、地域の必要性があるのに、なんで地域の予算が使えないんだという批判もあったり、あるいは、上田市の上層部のほうでどのように判断するか、どちらが先行するかとか問題が出ていますけれど、この辺の判断と言うのは先程センター長も言われたように、大変だと言うことは分かるし、その中で私も理解せざるを得ないのかなと思います。しかしながら、確かに協議会の中で、この問題につきましては前回いいだろうという方向性が出たにもかかわらず、上層部のほうでちょっと無理ですよというお話になったという経過だと思いますが。私はこの文章読ませていただきまして、1回目の協議会に100年プロジェクトの説明もございました。もっとその辺を総合的な判断をせよとの意味かと。今回特殊なポンプ修理を補助して欲しいというこちらの要請があったわけでございますけれど、市のほうでは全体を見て、その関係をもう一度検討せよという課題だと思います。そういう意味でいきますと、むしろ前回説明いただいた丸子温泉郷活性化100年プロジェクトの中で考えてまいりたいというのが私の言い方でございますけれど、もっと大きな事業に対して市は補助するのだという意味にとれるかなと、私は解釈したのですが。

(委員) センター長が言われるのは、行政としてはそういう言い方をされるんだと思うのですが、実際としては、本当に公平性が担保されて、しかも地域の特殊性の中である程度のお金を使うというのは、果たしてどういう場合があるのか、本当に私には疑問ですし、分かりません。それで例えば、今会長が大きい事業と言ったけれど、通常は市の予算でやるような事業になるわけです。だから、みんなが納得できるような方向性を出してもらわないと、こういう場合なら使えるという方向性を出してもらわないと、例えば地域協議会の中で、さっき出ましたLEDの問題で、地域の中で是非と言う問題で、それはやはり公平性の問題で終わると思いますので、もう少しその辺についての考え方を明確に示していただくことは必要だろうと。最後にそのことはお願いしておきたいと思えます。

(会長) 要望ということでよろしいでしょうか。

(委員) はい。

(委員) 丸子温泉開発(株)の株主構成はどうなっているんでしょうか。昔聞いたところだと、条例によって全部そこの権利になってしまうと聞いたことがある。

(次長) まず、上田市が56.3%。その他が温泉利用者で旅館が主でありまして、数株は個人とか温泉に関係ない業者も持っています。

(委員) そういうことは、修理をやる場合でも市の意向がほとんどで影響すると。半数以上、株券持っていますから。そういうことで理解してよろしいのでしょうか。

(センター長) 今の関係は、丸子温泉開発の内部の関係で、当然株主総会で事業計画とか了解を得るということです。過半数を超えていますから、上田市の意思決定が丸子温泉開発の意思決定と、数値的には繋がるかと。ただ、あくまで数値的と言うことです。

(委員) ですから、あくまで上田市の意向で、行政の意向で通るものだと理解したいと思います。

(委員) 3号ポンプ改修と言うことなんですが、これが改修されないと湯がなくなってしまうのではないのでしょうか。改修しなければ、3号ポンプ自体が老朽化しているんですよね。サビてどうしようも無い。3号ポンプを修理しなければ、湯が終わってしまう。そうなると、改修をしなければ鹿教湯は閉鎖になってしまうんですよね。そこまで言うてはいけないが。

(次長) 今のポンプが改修されず壊れた場合ですが、修理は今も自社で出来ます。補助がなければ絶対にできないという状況ではない。やらなければお湯は一時的に上がらなくなって、供給温度がかなりさがってしまうということで、完全に止まってしまうということではなく、温度が保て無いと言うことです。3号源泉が一番温度が高いのです。

(委員) 会社で借入を起こしてやれという指導だと思うのですけれど。そのように理解してよろしいか。

(次長) 3号ポンプだけでしたら、今ある会社の資金で対応できるわけですが、今後大きな改修等もありまして、そのために今の内に補助を入れてやっていきたいと言うことで、今回上がってきたものでございます。

(会長) 折角、地域協議会で決めたのにというところがありますが、この問題はこの辺にしたいと思います。

(副会長) 先ほどの発言にもありましたが、地域協議会で補助をしましょうという決定を出して、市の方へ要望を出したわけですが、それが聞き入れてもらえなかったということで本当に残念な思いです。しかし、今後そういうことであるんでしたら、一般財源のほうからの補助を申し入れていただけるような強い自治センターからの声をあげて頂き、地域も応援していきますから、そこは是非強くやっていって頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

(会長) 要望でよろしいですね。

(副会長) はい。

## (2) 分科会及び研究会での検討状況について

### (ア) 市民団体の交流と相互連携に関する分科会

(分科会長) 前回4月のときにご報告していますが、それ以降前回の地域協議会の後に開催しましたが、これといって皆さんに報告できるようなまとまった形のもの、意見としてまとめること出来ませんでした。といいますのは、1回目はとにかく交流をして実情をみんなで話し合っ、それで問題を見つけて、継続発展させていくための問題を見つけるということでした。2回目は、たくさんの方の事業の前例があります。その事業体の皆さんが集まって継続発展的にやっていくために、いくつかのグループが合同で新たな事業を起こすことが出来ないだろうか、2回目の時には探って行きたいなということもありました。それでは、どこどこが結びついてこういうことをやって行きたいと言う、そこまでいかないとしても、このグループと交流をして意見を交換して行きたいと言う、そういうグループが出てくれるといいなと。そういうことで2回目は、私たち委員側では期待をし

ていたのですが。まあ、そう性急にはこちらで思うような意見は出てこないのが道理なんです。それから前回の分科会で出ましたけれど、成果をみんなで見合ひましょうと。1回目は鹿教湯の沢のほうをずっと行きました。別な方向で、2回、3回と、それぞれが活動した成果をお互いに見て、宣伝をして、自分の地域に返せるものは返していく。そういう地域協議会委員一人ひとりの考えも含めまして、これからの人それぞれの検討課題になっていくんだろうなと思っております。

そこで、二つほどお願いをさせて頂きたいのですが、一つ目は2回目の交流会で各テーブルのリーダーになって頂いた方、まだまとめを出していただけていないグループがありましたら、地域振興課のほうへ是非お出し頂きたいと思っております。いくつかは出ではいるんですが、それぞれのを全部整理して、なにかそこからつかめる物があるかどうか、もう一回見直しをかけて、新ためて分科会に提案したいなと思っております。

それからもう1点ですけれども、丸子の地図のところに皆さんの活動、事業体の名前が入っている地図をご覧になっていると思いますけれど、その空白の地域が一つでも埋まっていくように、それぞれ自分の地域に持ち帰っていただいて、新しい事業の申請をしていただくグループが出てくるように、そういう個別的な応援も是非して頂きながら、続けて頂きたいと。資料の報告の最後にもまとめていただいておりますけれど、3回目はあるのか。やったほうがいいのか、やる価値があるのか、その辺も含めて今回の結果を整理させていただいて、もし課題が見つかって3回目に是非つなげたいということであれば、それを定義して、この2回目の交流会の分科会を閉じて行きたいと思っておりますので、ご意見等、それからこの間のまとめ等まだの方は是非地域振興課のほうへ出して頂きたいなと思っておりますのでよろしくおねがいします。以上です。

#### (イ) 公共交通に関する分科会

(委員) 4月23日の全体会終了後の分科会の報告ですが、全体会で情報提供という事で報告のありました、カネボウ跡地への路線バスの乗り入れについて、分科会でも説明を受けたいということで、建設課に来て頂いてお話を頂きました。これについては、本日の会議資料3に出ておりますので読んでいただければわかるかと思いますが、バス会社とカネボウの跡地利用をされている方と、中丸子自治会からも要望があるということで、協議が始まってきているとお話でした。その中で、実際バスの乗り入れについては、乗り入れに4～5分の時間がかかるとお話でした。また、あそこの場所は、子育てサロンとか、スーパーとか、色々店舗のある関係で、危険箇所も多々あります。危険箇所についてどうあるべきか、ということについて意見が出ております。まりんこ号も皆さんに今以上に利用していただけるようにどうしたらいいのか、PR、また、まりんこ号のバスのラッピングの案があるのかを次回までに検討して頂きたいということで、話がされました。

また、カネボウ跡地に中央病院が出来ることによって、上丸子駅前にも今までどおり回っていただけるのかどうかと言う話も出ております。今日、「4その他」のなかで、建設課からその後のご報告があるようなのでよろしくおねがいします。

#### (ウ) その他研究会からの報告

(会長) 研究会を実施、未実施等ありますので、報告事項がありましたら挙手でお知らせください。

(副会長) 地域の産婦人科医療を考える研究会は、5月16日に会議を持ちました。そこで、アンケート調査のことに話合ひまして、対象者を誰にするのか、アンケート

調査の形態、聞き取りにしたほうが良いのではないかと、というようなことを話し合いました。その後皆さんから出された質問案を11項目にまとめました。今後11項目まとめたものを再度検討してアンケートにしたいと思っております。アンケートが出きました時点で、また地域協議会のほうへお見せして、報告したいと思っております。

(委員) 丸子ドドンコの研究会からご報告します。5月1日の日に産業観光課長といろいろ話し合いました。協議会から委員さんと、次回の実行委員長の予定の自治会連絡会の滝沢さんと出て頂きまして、5月1日に準備会を開きました。そこで丸子ドドンコを1曲にしたらどうかという話が煮詰まってきました。それからもう一度、準備会を開いて実行委員会を立ち上げて行くという話しになった。地域協議会からは北村さんと中澤さんが代表して出ただけということ、準備会を進めていただくということになりました。以上です。

(委員) 新しい観光研究会です。昨日、研究会行いまして出た意見ですけれども、新しい何かを生み出すよりも、今ある観光資源を活かして、魅力をどんどんアピールしていろいろな方々に情報発信をしていこうということが中心になるとだろうという話になりました。ほかに、観光だけではなくて、商店や工業関係の皆さんとも協力をしあひまして、丸子の地域の魅力をどんどん発信をしていこうという話になりました。あと、丸子地域には丸子ドドンコ、爆水ランもそうですけれども、みんな個々に立ち上がっているものを一つに結び付けまして、観光にも宿泊にも、商業にも、工業でも、皆さんにやってよかったというご意見をもらえるようにしていこうという、会議内容になりました。商店街魅力アップ研究会と、工業の皆さんについても色々ご意見を頂きたいと思っておりますので、一緒に会議をもてる機会があればいいと、是非一緒に話し合いの場を持って行きたいと考えています。

(委員) 地域内分権の研究会ですが、前回、前々回は、長野県の中の他の都市の状況の調査ということでお話し上げましたが、事務局のほうのご努力で長野市の資料が入っておりますので、できましたら今日この後、研究会を開きたいのでよろしくお願ひします。

<質疑応答>

なし

#### 4 その他

##### (1) 木曾義仲武者行列に関する実行委員会について

(次長) それでは資料4についてご説明します。「信州丸子義仲祭り事業計画書」の資料をご覧ください。5月20日に第1回の実行委員会を開催致しました。事業計画書及び役員、そして予算案をつくったところがございます。今年につきましては、今までと4年前、その前にあった行列だけを中心にしたものではないということ、多数のご意見を頂きました。名前も新たに、前は木曾義仲武者行列という名前があったんですけど、今回は「信州丸子義仲まつり」ということで内容が決定してございます。イベントとしましては、今年の秋を主な義仲祭りの期間として、地域の特別なシーズンと位置付けて地域の力を結集して、複数のイベントを実施することで波及効果を期待しています。まず(1)としまして、げんき丸子産業フェスタに合わせて武者行列をする。これについては10月6日、1000人程度の行列を行いたい。そして産業フェスタの会場が、前はカネボウの跡地でやったのですが、今年は総合体育館のほうに産業フェスタがかわるということで、それに伴ってルートが若干変わりました。下記のとおり約2キロ位の中で計画をしております。

す。それに伴って、その行列の途中、産業フェスタの会場で色々なイベントが行われるということでございます。

(2) としまして、丸子修学館高校や各種店舗との連携としまして、これについては9月から10月頃にしたいと。義仲ゆかりの食材や平安時代末期の食を研究し、地域の限定商品を複数作成して、商品化して新たな成果を出したいということでございます、修学館高校でも、丸子トットコ会でも考えて行きたいとのこと。先日、内村っ娘の会の皆さんにも何かないでしょうかという事でお話をさせていただいて、検討を頂いているところでございます。

(3) 義仲の史跡のウォーキング開催ということで、体育祭に合わせて10月14日に実施したいと考えております。(4) それに、11月末に日本名湯百選シンポジウムが鹿教湯がありますが、それに合わせてイベントに参加して、木曾義仲ゆかりの地であることをPRしていきたい。(5) として、義仲しだれ桜の苗木の植栽及び周辺整備の開催ということで、11月に修学館、地元自治会、木曾義仲信州丸子会と連携して植栽を実施したい。(6) として、県内外の木曾義仲ゆかりの地との交流及び連携ということで、6月から来年3月までの間で、「義仲・巴」広域連携推進会議の参加団体：木曾町、富山県小矢部市など35の自治体と連携を推進して、当事業にも参加いただいたりして事業効果を向上させたいというものでございます。この行列のお祭りを通じて、長野県と富山県が連携して取り組んでいるNHK大河ドラマ放映実現に向けての広域的な観光連携に寄与して行きたいということでございます。

そして、市民協働の推進ということで、各イベントの参加については、広報などして地域ボランティアを広く募集して地域の一体感の醸成を図りたいと思っています。主催については、信州丸子義仲祭り実行委員会で、次のページに実行委員会の委員名簿がこのように決定したということで、委員長には前回と同じ木曾義仲信州丸子会会長の小林秀男氏、正副委員長に修学館高校の校長の尾澤さん、上田市商工会長の久保山さんと、木曾義仲信州丸子会副会長兼上田市商工会副会長の松山さん、それから丸子地域自治センター長が副委員長となっております、あとは以下ご覧の通りです。

今回の25年度の予算ということで、670万の予算で、うち上田市負担金が600万で、その他協賛金が70万円で、合計670万円でございます。支出については武具等レンタル料で330万円で、広報費で90万、イベント開催経費で214万円、その他経費として36万円、合計で670円という予算です。

以上です。

<質疑・応答>

(委員) こちらのほうの予算案や趣旨は結構ですので、私としては、前回、今回の話でも出ていましたが、決算書および支出内容の明細書について提出を求めたいのですが。この委員会終了後、または、次回、出していただけるのでしょうか。出していただけるのであれば、なるべく詳細を知りたい。私は反対しているわけではありませんけれど、実際これだけの金額を使うとなると理由付けが必要だと思っておりますので、予算ではなくて決算が必要だと思います。よろしくお願いします。

(次長) 前回の決算ということですが、お渡しできますので会議終了後お出しするようになりたいと思います。

(委員) 平成21年度決算額の中で、武具等レンタル費、今回は衣装代300万円、H21年

度決算額では、3,461,967 円。461,967 円減額になっているのですが、これは武具の数量を減らすとかの操作で出来るということなんですか。そこら辺のご質問をさせていただきます。

(地域政策係長) それでは私のほうから説明をさせていただきます。衣装代の内訳としましては、具体的に人数を何名から何名に減らすという計画は今のところございません。ただ、イベントの中で、出来るだけ自分の衣装を持ち寄って出してもらえないかというご意見が出ております。以前は、外に見える部分以外も全てレンタルでやってきたようですが、改める点は改めまして、いろいろ工夫したなかで経費を圧縮していきたいということで、今回 300 万を計上しているところでございます。具体的に行列の人数を減らす議論には至っておりませんが、様々な工夫をすることによって衣装代を圧縮していきたいということでございます。実行委員会でもお話が出ておりますが、今回の事業では武者行列だけがイベントではなくて、今までは個々のイベント、主には行列でしたが、そういった中からさらに広がりを持たせて、事業計画のなかの目的にもございまして、各々のイベントをつなぎ合わせまして、丸子地域は旧来製糸業が盛んだったところであったところから、「紡ぐむ」というキーワードを用いまして表現をしておりますとおり、それぞれの事業や想いをより合わせまして、絆を創出して行きたいということでございます。以前の協議会でもご指摘いただきましたとおり、行列だけのイベントではなく、広がりを持たせるというところを、準備段階から計画の中にも含みまして、このような形にしております。衣装代のほうから圧縮しました経費につきましては、イベント関連経費の地域連携イベントの中に 58 万円を計上してあり、これは食のイベントという計画のなかで、9 月頃開催して行きたいと思っておりますが、修学館さんにもご協力いただきながら、いろいろな食材、平安時代の食材ですとか、木曾義仲にまつわる食材など、色々な食のイベントを展開し、10月の6日に開催される行列のPRもかねて行って行きたいと思っております。プレイベントとして行って、行列を盛り上げて行きたい。その中で、商工会、修学館そして上田市で締結しているパートナーシップ協定に基づきまして様々な連携を展開し、地域の各店舗の皆さんにもご協力いただきながら事業展開をして参りたいと思っております。

## (2) 平成 25 年度わがまち魅力アップ応援事業第 2 回募集について

<次長>わがまち魅力アップ応援事業第 2 回募集について、6 月 3 日 (木) から 6 月 21 日 (金) まで実施されます。これにつきましては、また応募がありましたら、7 月開催の協議会において皆さんに審査を行っていただくようになりますのでよろしくお願いを致します。それで、制度の改正についてですけれど、いままで対象者ごとに補助期間や補助上限額を区分して実施していましたが、これを一本化しました。市民活動団体ではこれまで 2 年としていた補助期間も 5 年になるということでございまして、24 年度に補助事業を実施された団体の皆さんも、残りの期間、補助限度額の範囲内において継続事業としてやっていくことが可能になりました。自治会の皆さんも残りの期間について、補助上限額を変更して申請することが出来るようになった。また、第 1 回の申請で不採用になった団体も、内容を再検討して再申請が可能となっております。

<質疑・応答>

なし

(会長) 先程、分科会長の報告にもありましたが、皆さん是非、地域でお薦めいただきたいと思っております。



(3) 丸子地域自治センターだより 6月号記事について

(次長) A3横長の当日資料「新自治センター長に聞く」についてですが、これについては丸子地域自治センターだより第33号に記事として載せさせていただきます。センター長、斉藤会長及び丸山副会長に、インタビュー形式でやっていただいたものでして、斉藤会長さんからは重点目標について、丸山副会長さんからは丸子地域における事業という事で、主要施策的なものについて、説明をさせていただきました。また、地域内分権や市民協働参画について副会長さんからご質問いただいて、会長さんから最後にわがまち魅力アップ応援事業についての質問して頂き、お答えした内容となっております。

<質疑・応答> なし

(4) その他

(次長) 最初に資料6でございますが、「地域自治センターだよりさなだ」というものですが、これにつきまして今回から、各地域自治センターで作られた広報紙、また地域協議会で作られる広報紙につきましては、全協議会に、全ての委員さんに渡るように、みんなで情報交換を行うために提出してくださいということになりまして、最初に送られてきましたのはこの広報「さなだ」で、そして今日お配りした川西地域協議会だよりというものがございますけれど、これが二つ、送られてきたものでございます。丸子地域では会長・副会長の対談を載せた自治センターだよりを、上田市の地域協議会委員のほうへ配っていくということです。

(会長) その他全体をとおして、ご意見ご質問含めて何かございましたらお出しください。

<質疑・応答> 質疑なし

(建設課長) 先程、分科会の報告にありました点について、建設課からご説明させていただきます。路線バス運賃と言うことですが、路線バスのカネボウ跡地への乗り入れの件でございます。この27日にですね、上田市の公共交通会議が開催されまして、路線バス運賃軽減及び路線バスの上丸子駅経由について承認されたことについてご報告申し上げます。また、カネボウ跡地乗り入れの際にバスの回転場所ということについて、最短距離で、最短時間、しかも安全なところでまわって来たいということで、中央病院のロータリーを利用させていただいて、回転して戻ってくることを、バス会社のほうから提案がございまして、そのことも承認されてございます。また、この期に併せまして、公共交通部会で、循環バスのまりんこ号につきましても、今もツルヤのところで停まって、図書館のところで停まって、ぐるっとまわって帰ってくるのですけれど、まりんこ号も中央病院のロータリーにも入りまして、バス停を設けまして帰って来るとも提案しまして承認されております。今後は長野県の公共交通会議におきまして、また運輸局の申請をして許可を得れば、10月1日から運行階始の方向で進んでおります。皆さんのお力添いを頂きまして、大変有難うございました。

(委員) 今の建設課の課長のご説明に対してお聞きしたいのですが、今回の27日の公共交通の会議で承認された部分というのは、路線バスの運賃の軽減と、新中央病院への乗り入れと、まりんこ号自身の乗り入れと、承認されたということですよね。

(建設課長) はい、そうです。

(委員) それに伴って、昨年10月にまりんこ号の見直しをいたしましたね、時刻とか路線の関係とか。カネボウ跡地へ入ることで4~5分かるといって、時刻関係がまた変

わってくるのかなということと、中央病院さんがあちらに移ってスタートすることによって、今までこちらの中央病院に行っていた方も、新中央病院へ行くわけですね。

まりんこ号を違う場所にも回って頂きたいという話などが私のほうへ届いているんですけど、そのようなルートの見直しも今後検討していただけるのでしょうか。

(建設課長)

公共交通会議で丸子に関係することはその3点で、他にも議題はあるんですが、丸子に関しては特段問題ないとのこと。それから、もう1点、路線バスが4～5分余計にかかることについては、いったん入ってまた出てきますので、それについては時刻表もまた変更になります。千曲バス等で新しい時刻表が出来るということでございます。

循環バスにつきましては、去年の10月に見直しまして、全体的な余裕が出てきたんですね。以前は、夜遅くまで回っていたもので仕方がなかったんですが、余裕が出た今は中央病院に入ることも出来るかなと、また、これから多くは無理ですが若干でしたら検討していけるのかなという気はしている。公共交通部会でも来年にはなりますけれど、検討できるのではと考えます。

(委員) 何度もすみません。具体的に言いますと、中丸子とか、県営住宅のところとかでも、是非まりんこ号を入れて頂きたいというお話をお聞きしていますので、一応ご承知おき頂いて検討をまたお願いしたいなと思います。また、ほかの他の地域でもそういった声と言うのは実は上がっているのかなと、そういう要望とか、声を何らかの形で吸い上げていただけるようなことをやって頂きたいと思います。よろしく願いいたします。

## 5 閉会 (芹澤次長) 14:30